

平成21年度 小中一貫教育のまとめ

上田市立菅平小・中学校

1 菅平の地域性

菅平高原は、上信越高原国立公園の中にあり、四方を山に囲まれた盆地には集落が点在し、住民の多くは農業・観光業に従事している。

八月の平均気温が19℃、一月の平均気温が-5℃、年平均気温は6℃という冷涼な気候を利用して、農業の発展が続いてきた。開拓期(明治中期以前)、養蚕期(明治中期～第二次世界大戦)、蔬菜発展期(1945～65年)、蔬菜充実期(1965年以降)の四段階で発展し、薬草中心の開拓期から、馬鈴薯・キャベツ・白菜などの露地野菜中心の時期を経て、現在はレタス中心の農業へと移行している。

一方、観光面では、昭和2年(1927年)にスキー場が開発され、翌昭和3年には写真雑誌で「日本ダボス菅平高原」と紹介されて、「日本のダボス」という別名が生まれた。以後、スキー人口の増加と共に、冬のスポーツとして盛んになり、訪れるスキー客も増大し、夏のレタス畑は冬のゲレンデに活用されるとともに、ホテル、旅館、民宿の数も増え、レジャースキーの拠点として名声を得てきた。スキー人気がピークを超えた1980年代の終わり頃からは、高地トレーニングへの適性にも着目して、ラグビー・サッカー・陸上競技などの合宿招致にも力を注ぎ、現在では「ラグビー合宿のメッカ」とも言われている。

地域の方々には、農業と観光を共存・共栄させたいという強い願いを持っている。一方、子どもたちは、拠って立つ独自の歴史や文化、生活を支える農業主産品や観光産業に対する興味・関心が必ずしも高くないと感じる。地域への理解と愛着が薄れつつある中、近年では若者の流出傾向が強まり、地域の活性化に向けた人づくりは大きな課題ともなっている。

このような状況にあって、義務教育の場においても、地域の特性を正面から捉え、基礎的な学力として定着させることにより、更なる農業収入向上を目指した品種、作物の開発や滞在型リゾート地への発展等、地域を支える人づくりに結び付けていく取り組みが特に求められている。

2 学校の概況

設置年月日 昭和22年4月1日

長村小学校菅平分校

長村中学校菅平分校

独立 昭和33年4月1日

長村立菅平小・中学校

学校規模

平成21年5月1日現在

小学校	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	中学校	学年	1学年	2学年	3学年	計
	学級数	1	1	1	1	1	1	1		6	学級数	1	1	1
児童数	男	4	6	4	6	8	7	35	生徒数	男	7	4	10	21
	女	3	6	2	4	9	1	25		女	6	4	10	20
	計	7	12	6	10	17	8	60		計	13	8	20	41

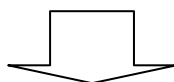
郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓のうえに打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、社会が多様化し、国際化・情報化の時代をむかえている。本校では、菅平の自然・歴史・産業を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自己教育力を身につけ、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

《 具体目標 》

- 1 学習や活動に進んで取り組み、最後までやりぬく
・学ぶ意欲 ・ねばり強さ ・実行力 ・責任感
- 2 素直な心をもつ
・自然、人、物への敬愛の心 ・協力 ・豊かな表現 ・思いやり
- 3 澁刺とした体をつくる
・かけがえのない自分 ・調和のとれた体 ・心身の健康



願う児童・生徒

- ①自分で考え、判断し、行動できる子ども
- ②お互いに切磋琢磨し合う子ども
- ③たくましい“開拓者精神”をもつ子ども
- ④価値観の多様性を認め自分を、仲間を、大事にする子ども
- ⑤校技スキーに燃える子ども
- ⑥自分を素直に表現できる子ども



今年度の指導重点目標

教育の理念「ひらく」視点「ともに」

- | | |
|------------------|---|
| (1) 学力の向上 | 「わかる・やる気が出る・力がつく授業づくり」
「表現力を高める指導の充実」 |
| (2) 豊かな感性 | 「美しいもの、大きなものに触れさせる」
「驚きや感動の心を育む」 |
| (3) 共生の心 | 「自他共に高めあえる人間関係づくり」
「一人一人が活躍できる場づくり」
「喜びや悲しみ、心の痛みを分かち合える集団づくり」 |